教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 健康・スポーツ科学科　　資格： 准教授　　氏名： 岡崎　祐史

研究分野	研究内容のキーワード
スポーツ経営学　武道（柔道）	スポーツ経営・雇用契約・柔道
学位	最終学歴
修士（経営学）,学士（体育学）	大阪経済大学大学院 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1.柔道授業におけるディフェンス畳を用いた初心者指導の有用性についての一考察（査読付）	共	2022年3月8日発行	武庫川女子大学紀要　第69巻	岡崎祐史　大藤潤也　　P29-36
2.大学生柔道選手におけるライフスキル獲得の様相（査読付）	共	2018年3月	関西武道学研究第27巻　第1号　別冊	岡田龍司、木下理恵、岡崎祐史、徳安秀正、村元辰寛 P1-9
3.大学生柔道選手におけるライフスキルの獲得を促すコーチングスキルの認知に関する研究　（査読付）	共	2017年3月	関西武道学研究第26巻　第１号	岡崎祐史、岡田龍司、徳安秀正、山本浩二 P1-9 本研究では、大学において高度なレベルで競技を行う柔道選手544名を対象として、LSの獲得を促すCSの認知度とLS獲得との関係性から性別ごとに検討した。まず、CSの認知度について検討したところ、女子の方が男子よりも有意に高いことが示された。次に、相関分析の結果、男子は両変数間において複数の有意な正の相関関係が認められたが、女子はそれらの関係性が男子と比較して希薄であると考えられた。さらに、重回帰分析の結果、男女ともにCSの各側面がLSの獲得に有意な正の影響を及ぼしていたが、女子はその影響は男子よりもみられなかった。以上の結果は、女子のLS獲得レベルが高い可能性を示唆しており、今後は女子柔道選手に対するコーチングの具体的な方略について検討する必要性が挙げられた。
4.大学生柔道選手におけるライフスキル獲得とキャリア成熟との関連　（査読付）	共	2016年12月	神戸医療福祉大学紀要 Vol.17（1）	山本　浩二・島本　好平・岡田　龍司・岡崎　祐史・中山　忠彦・矢野　裕介 107～115 本研究では，高度なレベルで競技を行う大学生柔道選手を対象とし

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				て，LSの獲得とキャリア成熟との関係性，LSの獲得がキャリア成熟に及ぼす影響について検討した．その結果，両変数間の関係性において全般的に有意な正の関係性が示され，特に，LSの「最善の努力」や「責任ある行動」および「考える力」と，キャリア成熟との間に中程度の有意な正の関係性が示された．さらに，LSの「体調管理」や「考える力」，「感謝する心」がキャリア成熟尺度の各下位尺度に有意な正の影響を及ぼしていたことが明らかになった．したがって，大学生柔道選手のLSを活用したキャリア教育プログラムには，「考える力」を中心とした構成を行っていくことが肝要なことであろう。
5.SURVEY ON ATTITUDE TOWARD JUDO -WITH JAPANESE UNIVERSITY JUDO ATHLETES AND REGULAR STUDENTS AS SUBJECTS- （査読付）	共	2016年9月	Procceedings of the 2016 International Association of Computer Science in Sport(IACSS) Conference	Yuji Okazaki, Ryuji Okada, Hidemasa Tokuyasu, Yasuhiko Moriwaki P129-132 本研究は、日本の大学柔道選手群と一般学生群（T大学､D大学､K大学､R大学､RY大学､O大学､M大学の7大学733名）を対象に、柔道に対する意識調査を実施しどのようなイメージを持っているかを検討した。以上の大学選手群と一般学生群の結果から、１）性別は、女性が｢柔道衣の白と青｣の必要性と｢柔道はスポーツである｣と見なす傾向を強く示し、２）経験年数は、未経験者が｢柔道衣の白と青｣の必要性と｢柔道はスポーツである｣と見なす傾向を示す結果となった。
6.動画を使った内股の相違の発見－代表的柔道家の内股の相違－ （査読付）	共	2016年3月	近畿大学教養・外国語教育センター紀要（一般教養編） 第６巻 第１号	岡田龍司、村元辰寛、徳安秀政、岡崎祐史、穴井隆将、倉賀野哲造 P13-21 本研究は、投げ技を「内股」の一本勝ちに限定して、2人の柔道家の動作の違いを解析したところ2人の動作に大きな相違を発見したので報告することとした。100kg以下級の柔道家の「掛け時間」は100kg超級の柔道家の「掛け時間」の約半分であることを発見した。さらに100kg以下級の柔道家の相手を投げる合成速度は、100kg超級の柔道家の約2倍であることを発見した。このように、代表的男子柔道家の「内股」を解析し、その動きを学習し、動作をまねることにより一般柔道家の「内股」の技術を向上させることができるであろうといえる。
7.2001年に開催された世界柔道選手権大会における男子の卓越した立ち技の動作解析 （査読付）	共	2015年3月発行別冊	近畿大学教養・外国語教育センター紀要（一般教養編）	岡田龍司、徳安秀政、岡崎祐史、穴井隆将、倉賀野哲造 P39-46 本研究は、2001年7月にドイツのミュンヘンで開催された世界柔道選手権大会における卓越した男子100kg級柔道家の投げ技の動作解析を実施した。卓越した投げ技の例として、男子100kg級柔道家1人の「内股」、「大内刈り」から「大外刈り」の連続技、「背負い投げ」の動作解析を行い、それぞれの技について結果を示した。
8.柔道に対するイメージ調査の研究―日本人及び外国人柔道選手群を対象として― （査読付）	共	2014年3月31日	近畿大学教養・外国語教育センター紀要（一般教養編） 第3巻 第1号	岡田龍司、徳安秀正、岡崎祐史、松田基子、森脇保彦、中島たけし P61-72 本研究は、日本人柔道選手群と韓国人柔道選手群、アメリカ人柔道選手群を対象に柔道に対する意識調査を実施し、選手が柔道に対して、どのようなイメージを持っているかを比較検討することとした。結果、日本人柔道選手群においては、一本勝ちを強く意識することなどを目的とした競技的意識と怪我や外見を気にする身体的意識、さらに伝統や文化を重んじる意識が高く現れた。また、韓国人柔道選手群、アメリカ人柔道選手群においては、自身の内面的向上と共に柔道技術の向上を意識し、柔道を通して精神的な成長を強く意識されていることがうかがえた。以上のことから柔道創始者嘉納治五郎師範が理想とした柔道は、伝統的な精神文化としての柔道と試合を主とした競技的柔道が、別々に普及・発展していると考えられる。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項